

## 第9回「松江市一斉ノーマイカーウィーク」の実施結果（中間報告）について

### 1 趣旨

マイカー利用の抑制が公共交通の利用促進、渋滞緩和、CO2 排出量の削減に繋がることを市民一人ひとりに啓発し、日常的な移動にあたっての行動変化を促す。

### 2 概要

#### (1) 内 容

市民、市内通勤者がマイカーを利用しない日を1日以上設けて実践する。

#### (2) 実施期間

平成29年9月21日（木）～9月30日（土）の10日間

#### (3) 今年度重点項目

- ① 事業所への参加依頼は、一律的ではなく、公共交通への転換の可能性等を考慮した上で、地域や業種等を踏まえ、訪問する事業所をピックアップし、行う。
- ② 事業所への依頼にあたっては、依頼文のみでなく、公共交通にまつわる諸施策等を記載した啓発チラシを活用する。
- ③ この取り組みを広く市民に知っていただき、活性化を図るため、広報活動を強化する。
- ④ 事後の検証を行い、来年度以降の取り組みに活かしていく。

### 3 実施結果

#### (1) 実施計画の検証

分類	実施方針	実施内容	評価指標	目標値 (前年)	実績値
参加促進 キャンペーン	事業所への 働きかけ	・ 郵送による参加呼び掛け ・ 市内事業所への訪問 ・ 市内学校・公民館への参加呼び 掛け	参加事業所数	150 事業所 (144)	150 事業所
		・ 公共交通の利用方法やお得な 情報等を掲載した冊子および 啓発パンフレットの配布	参加者数	3,000 人 (2,700)	4,100 人
	ファミリー層への 働きかけ	・ バスまつり会場内でのチラシ 配布	利用者数	200 人	34 人
広報活動	バスまつり	・ 会場内でのチラシ配布	CO2 削減量	12.0 トン (11.7)	17.9 トン
	のぼり旗の 掲出	・ 宍道湖大橋への掲出			
	チラシ配布	・ 各事業所への配布			

## (2) まとめ

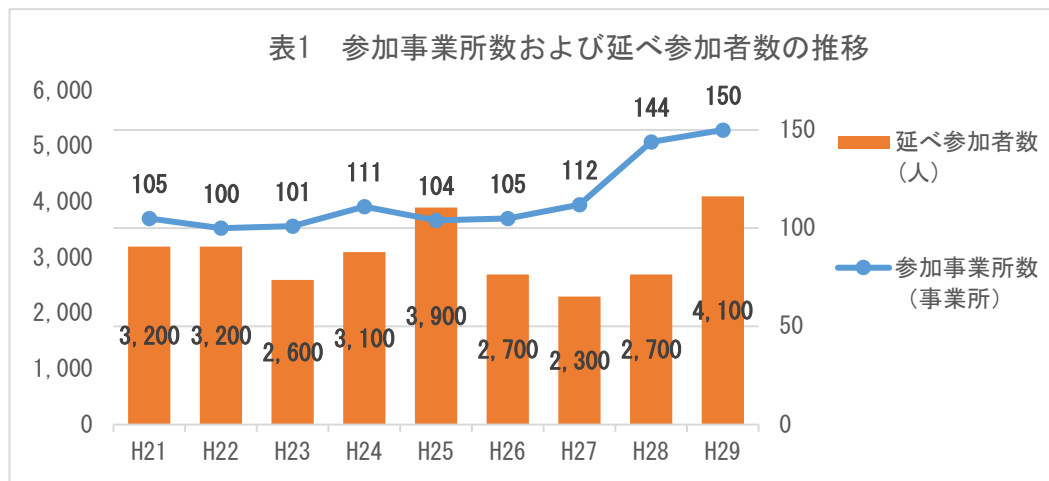
### ア 参加状況

#### ①参加事業所数

- ・過去最高だった昨年（144 事業所）を上回る 150 事業所が参加した。
- ・その要因としては、参加事業所数は、訪問による事業所への直接的な働きかけ（34 事業所）や、新たに公民館・小学校等への参加呼びかけを行ったことによる成果があらわれ、新規 45 事業所が参加する結果と考えられる。

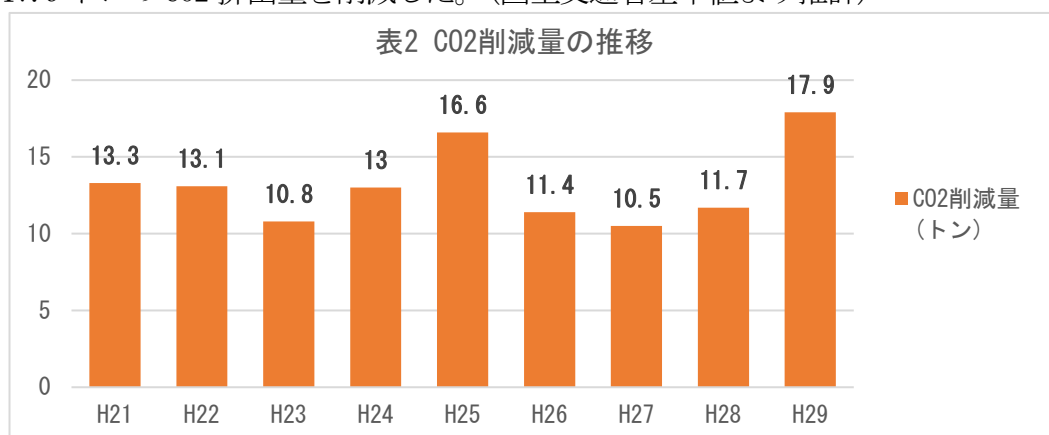
#### ②延べ参加者数

- ・参加者数は、過去最高の 4,100 名がノーマイカーの取り組みを行った。
- ・その要因としては、新たな取り組みとして、公共交通利用の手引き等の啓発資料を配布したことや、休日参加や業務利用の奨励等、「できることから」「できるペースで」「できる部署から」「できる人から」「できる日に」、少しずつ取り組んでいただくよう呼びかけたことで、事業所内での参加呼びかけが促進されたものと思われる。



### イ CO2削減量

期間中に参加者がクルマから他の交通手段へ転換したことにより、過去最高となる約 17.9 トンの CO2 排出量を削減した。（国土交通省基準値より推計）



## ウ 渋滞長

- ・ノーマイカーウィーク期間前と期間中との比較では、観測地点 6 か所中 4 か所で渋滞長が長くなる傾向が見られた。
- ・その要因としては、今年度の調査が、期間前（9/13 晴）と期間中（9/27 雨一時曇り）で天候が異なる中で実施されたためと考えられる。

※ 例年は、天候がほぼ同じ条件で実施

- ・一般的に、雨の日は、自動車の速度を落として車間を空けて走るため、交通渋滞が発生しやすいと言われている。（出典：首都高速道路㈱ホームページより）
- ・松江市でも、雨予報の日は、自動車交通量の増加や渋滞が発生する傾向があり、今回の結果となったものと思われる。
- ・また、交通量の増加要因としては、普段、徒歩や自転車外出している人がクルマを使用したことや、親が子ども（高校生等）を学校まで送迎したこと等が考えられる。
- ・従って、今回の測定結果については、参考値に留めざるを得ないとする。

## エ バス利用者数

市営バス主要 4 路線の利用者数をみると、ノーマイカーウィーク期間前よりも期間中が増加した。また、期間後も、期間前と比べて増加した。

### ① 平日

平日☀️では、期間前と比べ、期間中 6.1%、期間後 5.5%の増加

### ② 土・日曜日

土日☀️では、期間前と比べ、期間中 29.0%、期間後 19.9%の増加

